

第2回少子化対策・子育て支援専門部会 議事要旨

日 時：令和4年10月12日(水)9:00~11:00

会 場：県庁3階特別室及びオンライン

○委員の主な意見

項目1：若い（就職期の）女性に選ばれるための対策について

- ・（県外の）大手企業はどんどん働き方改革を進めており、県内は遅れている。
- ・企業のイメージアップや機運醸成の観点から考えると、「女性が働きやすく、活躍できる環境づくりの推進」が一番大事だと思う。
- ・女性活躍推進法に基づく行動計画の策定は、従業員が101人以上の企業では義務となった。透明性があがると若い人の目に触れるので、喫緊にやるべき。富山県では、従業員が100人以下の企業も多いが、ここが変わっていかないと地方は厳しいので、啓発をしっかりとやってほしい。
- ・企業が状況を認識し、女性を活躍させるという意識を持つていくことが大事。
- ・男性の育児休業は長くても1カ月くらいだと思うが、それで家庭進出ができるのか。子育てしながら働く中で、保育園のお迎えが慌ただしい。男性が保育園にお迎えに行くのが当たり前になるとよい。
- ・男性の家庭進出について、女性の労働時間が少ないことが男性を長く働かせている要因。同じ能力であれば女性を採用するというようにしないと進まない。企業はどんどん女性を採用してほしい。
- ・リモートワークは、地方では不要と思っている経営層は多いが、女性に限らず男性も通勤時間を省ける。出勤しても保育園の迎えの時間に退社し、迎えた後にリモートワークするなど、色々な使い方をして、男性の育児参画につなげてほしい。
- ・男性が保育園に送ることで、女性が少しホッとできる時間があるだけでも違う。勤務時間がフレキシブルになればよいが、県で制度を設けないと、企業はできないと思う。
- ・大学進学時に色々な情報が入ってきて、都会の企業の方が魅力的、女性を引き立ててくれそうと思われてしまうということがあるので、富山の企業も「ちゃんとやっている」ということを発信する必要がある。
- ・伴走支援と好事例の横展開はきりが無い。しっかりとやっているところをきちんと広報することがまず必要。とやま女性活躍企業の女性をばんばん取り上げる、企業ナビとやまでもとやま女性活躍企業をどんどん紹介すればよい。

- ・人、特にトップの人との出会いが大事。富山をリードする企業家を紹介するページがあればよい。
- ・自ら実行・発信している企業家をフィーチャーすることはよいこと。
- ・企業ナビとやまなど、情報発信については、企業側にはリーチが、労働者からはアクセシビリティがいいものにしてもらいたい。
- ・企業ナビとやまは、情報が並んでいるだけで特徴がない。動画での紹介はよいが、企業が自ら掲載するのは大変なので、県が動画制作を支援するのがよいのではないか。
- ・中高生に企業のPR方法を考えてもらうことはよい。ただし、楽しかった、面白かったで終わってしまう事例もあるので、毎年企業に行く仕掛けなど、学生と企業が関係を持てる取組みを継続する必要がある。
- ・県内在住時（中高生向け）のアプローチについて、中高生や大学生に県内企業のアンバサダーになってもらい、PRしてもらう方が面白いのではないか。
- ・若い女性から選ばれる富山県という視点は大事。保育は若い女性が帰ってくる分野だと思っていたが、現状は保育士が不足しており、魅力的な仕事でないと帰ってこない。

項目2：子育て世代から選ばれるための対策について

- ・「子育てするなら富山県」は、県外への強いアピールになるが、「働きながら」を一緒に打ち出していないと、他県との優位性がなく、どこと比べても一緒になってしまう。
- ・理想の子どもの数と実際に欲しい子どもの数について、どう考えるべきか。2人目を産むのと3人目を産むのは違う。
- ・理想の子どもの数について、30歳以降で第1子となると、2人が限度と考えてしまう。4人、5人の子どもがいる人は20代で出産していることから、後手にならないよう教育の場で人生設計を考える機会があればよい。
- ・第何子であろうと、30代前半までに妊娠することが大事ということをしっかり言っていくべき。
- ・ライフデザイン教育がとても重要。
- ・子どもは年齢が上がるほど授かりにくいということがあるので、プレコンセプションケア（妊娠前の健康管理）が大事。
- ・石川県では、妊娠が可能かどうかの検査費用を県が全額負担するという事業を実施しているが、妊娠を意識するきっかけになる。石川県では対象を子どものいない世帯に限っているが、富山県では2人目も対象とすることで、2人目を産むきっかけとしてもらうのもよいのではないか。

- ・2021年の第16回出生動向基本調査では、専業主夫(婦)を希望する男性は7%、女性は13%。妻(夫)が非正規でもよいという人は男女共2割ほどになり、コロナ禍で極端に減少している。
- ・病児保育の実施施設はかなり増えてきた。利便性の向上には、市町村間の格差をなくしていくことも必要。
- ・一時保育については、様々な事情がある中で、いつでも利用できる体制を整備することが必要。未就園児を保育園に預けたい時に、いかに安心して預けられるかがポイントであり、未就園児を含め全ての子どもへのサービスをしっかりととして、富山県がトップランナーとなればよい。
- ・子育て家庭への経済的支援について、第何子かということでは、若い世代からの反発を受けるので、絶対にやめるべき。
- ・〇〇券は紙のことが多い。使えるお店を探すのも、券の配付にもコストがかかる。ペイペイのような既存インフラを活用しコストを抑え、その分補助を増やしてほしい。
- ・子育て応援券は電子化してもらいたい。
- ・出生数が減っているのは大変ショックな話であり、今後さらに進行すると、保育園や認定こども園の運営も成り立たなくなる。
- ・保育園や小学校では、紙での提出書類が多い。書く側も受け取る側も大変なのではないか。来年には変わっているといい。